

日本心血管理学療法学会「COVID-19 関連情報特別チーム」
海外の専門情報

No.36

調査者	小川 明宏、齊藤 正和
情報ソースの刊行日	2020年4月28日
情報ソースの調査日	2020年5月5日
日本理学療法士学会 HP に公開された日	2020年5月12日
日本語タイトル	心臓リハビリテーションと COVID-19: 科学的根拠に基づく自宅で実施するサービスを利用する必要性
情報ソース	Dalal H, et al. Correspondence to the EJPC in Response to Position Paper by Ambrosetti M Et Al. 2020: Cardiovascular Rehabilitation and COVID-19: The Need to Maintain Access to Evidence-Based Services From the Safety of Home. Eur J Prev Cardiol. 2020 Apr 28.
情報のカテゴリー	回復期の心リハ、生活期の心リハ(介護・福祉系を含む)、包括的心リハ
発信地域	ヨーロッパ(イギリス)
DOI	10.1177/2047487320923053
URL	https://journals.sagepub.com/doi/full/10.1177/2047487320923053?url_ver=Z39.88-2003&rft_id=ori:rid:crossref.org&rft_dat=cr_pub%20%20pubmed
要約	<ul style="list-style-type: none"> 近年、自宅やウェブを利用した心リハのオプションも提案されていたが、ポジションペーパーには残念ながらこれらのことが欠落している。 COVID-19 パンデミックにより、自宅で実施する心リハが奨励されており、新しい実践的介入方法の早急な検討が必要である。 米国心臓呼吸リハビリ協会は、デジタルアプローチの促進や自宅で実施する心リハの提供を奨励する為、革新的なデリバリーモデル共同研究を設立した。 革新的な提供方法導入の際には患者側のバリアや提供方法の評価が不十分であることへの注意が必要である。
最も注目するポイント 理学療法にどのように役立つか？	<ul style="list-style-type: none"> COVID-19 パンデミックにより、在宅心リハや新しいデジタルアプローチの促進ならびに早急な検討が望まれる。 革新的な心リハを導入するには、患者側および医療者側の両方のバリアが存在することを十分考慮する必要がある。